

地域の先生方へのお知らせ

INFORMATION

医療機器の共同利用

※ 2023年6月現在、放射線診断医による読影を再開しました

■CT・MRI・骨密度・マンモグラフィ

(利用対象:登録医)

☎045-628-6365

FAX 045-628-6367

【受付部署】医療連携課

【受付時間】平日 9:00～16:00

■RI・PET/CT

(利用対象:すべての医療機関)

☎045-628-6881

FAX 045-628-6763

【受付部署】核医学検査室

【受付時間】平日 8:30～17:00

外来診療の予約・緊急受診の依頼

☎045-628-6365

【受付部署】医療連携課(夜間・休日は救命救急センターに転送されます)

【受付時間】外来予約:平日 8:30～17:00

緊急受診:24時間365日

医療機関専用ホットライン

■ニューロホットライン(脳卒中・神経救急疾患) ☎045-628-6865

■循環器ハートライン(循環器疾患) ☎045-628-6867

■心臓血管外科ホットライン(大動脈緊急症) ☎090-5560-0584

第1回 医療連携に関するアンケート



地域医療機関との連携強化、サービスの改善に役立て
るため、ぜひご意見、ご要望をお聞かせください。
回答はコチラのQRコードからお願いします。

回答期限

2023.7.31(月)まで

※紙での回答をご希望の方は、お手数ですが、
医療連携課までお問い合わせください。

紹介患者さんのお問い合わせ・ご予約は医療連携課で承ります。



横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3丁目12番1号

医療連携課

電話 045-628-6365(直通)

FAX 045-628-6367(直通FAX)

受付時間 平日 8:30～17:00



日本赤十字社 横浜市立みなと赤十字病院
Japanese Red Cross Society

みなとからの風 No. 49

医療連携センターだより



横浜市立みなと赤十字病院の「新体制」始動

前向きに優れた医療インフラを活用して、
地域に貢献したい。

Special Interview



インタビュー全文を
WEBで公開中

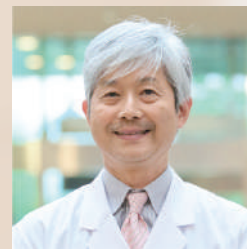
2023年4月より院長に赴任いたしました大川淳です。横浜市立みなと赤十字病院はいわば「真面目な医療を提供する病院」と認識しています。当院は救急医療、集中治療専門医が多くいるのが特徴です。救急センターは拡張工事を始めるところで、さらに多くの救急車の受け入れが可能になるでしょう。小児科医は9名、精神科医は9名と、通常は経費的に配置できない数のドクターが所属しています。地域の先生方に、当院をうまく使ってほしいのです。たとえば小児科の夜間休日の急な発熱や外傷は、診療所の先生にとって負担ではないでしょうか。ほかにも精神疾患のある方の急激な変化や急性腹症などは受けにくいと思います。そのような際、救急車を呼ぶほどでなくとも当院に紹介してください。打撲、転落などの外傷も対象として考えています。働き方改革が叫ばれている今の時代、地域の先生方にはお困りのケースがあるでしょう。治療後はすぐに逆紹介いたしますので、ご遠慮なくご紹介ください。

横浜市立みなと赤十字病院

院長 大川 淳

Atsushi Okawa

副院長からのご挨拶



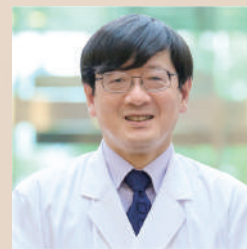
副院長

武居 哲洋

Tetsuhiro Takei

副院長の武居哲洋と申します。専門は救急・集中治療で救命救急センター長を兼任しております。当院はこの4月から大川淳院長を迎え、新たな体制で「みなとからの風」を受けながら船を動かしております。当面は、新型コロナウイルス対応に大きくシフトしていた医療を通常体制に戻すことに注力しております。

一方、2024年度から始まる医師の働き方改革の影響は大きく、医療の質を落とさずに法令を遵守するために業務効率化等の努力を続けて参ります。地域の医療機関におかれましては、これまで以上に当院との連携につきまして切にお願いするとともに、これに応えるべく信頼される質の高い医療の提供に尽力していきたいと存じます。



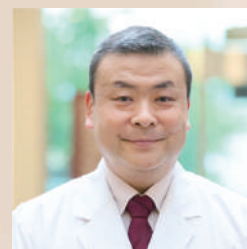
副院長

山本 晃

Koh Yamamoto

副院長の山本晃（こう）と申します。私は磯子区出身で専門は血液内科です。当院開院の立ち上げを行い、感染、化学療法センター、がんセンター、緩和医療、電子カルテ、購買、経営企画などに携わっています。2022年10月に副院長を拝命し、医療連携、がん診療、医療情報、労務管理なども担当します。

日本の医療は、医師の働き方改革、地域医療構想、医療介護制度改革など、複雑な問題を抱えており、これらを解決するには、病診連携、病病連携がポイントとなります。当院が地域の急性期病院として地域医療との連携をますます強化し、愛着のある横浜の医療を発展させたいと思います。今後とも、みなと赤十字病院をよろしくお願い致します。



副院長

若林 良明

Yoshiaki Wakabayashi

副院長の若林良明と申します。自身の臨床領域は整形外科・手外科です。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し「アフターコロナ」と呼ばれる社会となり、地域基幹病院としての診療のあり方を、コロナ前の状況から抜本的に見直す必要が生じております。

地域の先生方と協同で、当院が市民の健康を守る病院として安定的に機能を発揮できるよう、病院管理業務に挺身して参ります。これまで私は臨床と若手教育に傾注して参りましたので、チーム医療に欠かせない現場の事情に最も近い幹部として頑張りたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。